

池田出身・上原良司もテーマに講演やシンポ

松本で高校生ら 非戦の思い新たに

1945↓2025
戦後80年

松本地域の高校教員や高校生らでつくる「わだつみのこえ80年の会」が23日、松本市の深志教育会館で「わだつみのこ

え戦後80年の集い」を開いた。太平洋戦争の戦跡を撮り続ける写真家安島太佳由さん(66)＝東京都＝の講演やシンポジウムなどがあり市民ら約100人が聴いた。

同会は戦後80年に合わせ、太平洋戦争中に特攻で戦死した池田町出身の上原良司をテーマに学んできた。安島さんは、上原が出撃前夜に書いた「所感」を紹介。「自分は最後まで自由主義だということ、権力主義や全体主義の国は最後は敗れるということを書いて」と強調した。安島さんや高校生が参加したシンポジウムには「特攻文学論」の著作がある帝京大学教授の井上義和さん(52)も登壇。「上原のような『自由』への言葉を持たず、特攻に行った若者の気持ちにも思いをはせて」と投げかけた。

松本第一高校、松本深志高校、松本県ケ丘高校の生徒は、戦争や平和を巡る各自の学びを発表。松本第一高校の7人は、捕虜の扱いなど日本の加害にも注目し、「二度と戦争に関与してはならないという気持ちを持ちたい」と結んだ。



安島さん(左から2人目)や井上さん(同3人目)、高校生らが登壇したシンポジウム